

令和4年度 すこやかメールマガジン 第816号【子どもに育てられる】1月19日配信

みなさん、こんにちは。県立生涯学習推進センターメルマガ担当です。

今週初めまでの暖かな日に、春がきたかなという錯覚を起こしかけていたところに、昨日の積雪、そして、今週末の寒波…。やっぱり、まだ冬だったと気合を入れ直す今日この頃です。

話は、年末年始にさかのぼります。

小学校から中学校へ、中学校から高校へと進むときに、それまで使った物の整理や片付けをしなかった娘が、「部屋、片付ける！使っていないものがたくさんあるから整理したい！！」と言い出しました。・・・(^_^;)

娘の部屋から使わない物が出てくるということは、それを捨てるか収めるかの断捨離の決断、そして、収める場所の確保という問題が私の頭の中に浮上しましたが、今やるしかない、覚悟を決めました。

そして、片付けは始まり、娘から言われた取っておいてほしいと言うものを整理していると、小学校6年生の頃の作文ノートが出てきました。パラパラと眺めていると、「私の家族」という題名が目にとまりました。一体、娘は何を書いていたのだろうと思い読み始めると、家族への様々な感謝が綴られる中に、「毎日おいしいご飯を食べられる家に生まれた幸せ」という言葉がありました。

娘が保育園の頃は、迎えは、いつも閉園時刻ぎりぎり（過ぎたことも多くあり）で、いつも一番最後でした。迎えの後、夕飯の準備、お風呂入れ、21時半頃までには寝かせたいと思うと、スーパーのお惣菜コーナーに足が向きました。娘に「どれ食べたい？」と聞くと、「ママの作ったご飯が食べたい」といつも言われました。そう言われるのはうれしいのですが、お惣菜食べてくれると助かるんだけどなと思いつつ、帰宅後、短時間で作れるものを作って、食べさせたものです。

そんな娘は、高校生の今でも、「ママの作ったご飯が、おいしい、おいしい」と言って食べます。決して料理が上手とは言いませんが…(^_^;)、その言葉が発動されると、忙しくても作らずにはいられなくなる自分がいます。「魔法の言葉なのか!？」と思います。娘を育てているつもりで、自分が育てられているのかもしれないと思いました。

目の前のことに集中しがちな慌しい時期が過ぎ、子どものことを少し俯瞰的に見ることができるようになって初めて気付く「親としての幸せ」があると思った出来事でした。

☆子育てに関する悩みを一緒に考えます☆

子育て電話相談「すこやかダイヤル」 0198-27-2134

☆メルマガへのご感想、アドレス変更・配信停止はこちらへ(^_^)/
kosodatem@pref.iwate.jp

★=====★

【発行・文責】岩手県立生涯学習推進センター

【HP】<https://manabinet.pref.iwate.jp/hp/>

【Twitter】<https://twitter.com/manabinetiwate>

★=====★